

2015 年 審判上の確認事項

I. 競技規則について

2015 年度公益財団法人日本バレーボール協会の定める 6 人制競技規則により実施する。ただし、別に定める特別競技規則及び小学生バレーボール・フリーポジション制を用いる。

II. トスについて

決勝戦は試合開始 11 分前、それ以外は試合開始 5 分前に、記録席前で主審・副審立ち合いで両チームのチーム・キャプテンが行う。トスの際、チーム・キャプテンはキャプテンマークの付いたユニフォームを着用する。

※5 年生以下のカテゴリーは、決勝を含め 5 分前にトスを行う。

III. 公式練習について

(1) 決勝戦の公式練習は、サーブ権を得たチームから 3 分間ずつ行い、両チーム合同の場合は 6 分間とする。決勝戦以外にあっては、両チーム 3 分間の合同練習(打ち合い)を行う。

(2) 公式練習は、エントリーされたチーム構成員以外の参加は認めない。

※5 年生以下のカテゴリーは、決勝を含め 3 分間の合同練習(打ち合い)とする。

IV. 試合進行について

(1) 公式練習前に監督、チーム・キャプテンは、記録席で公式記録用紙に署名すること。なお、チーム・キャプテンは、試合終了後も速やかに署名すること。

※6 年生以下のカテゴリーは大会二日目第一試合より公式記録席を設置し、署名等を行う。

(5 年生以下は不要)

(2) 試合開始前と試合終了後は、登録メンバー全員がエンドラインに整列した後、主審の指示に従いネットを挟んで互いにあいさつを行う。

(3) 試合は、ワンボールシステムで行う。したがってデッド後は速やかにボールを確保し、サービングチームに送ること。

(4) ベンチ・スタッフは、統一されたウェアを着用し、監督、コーチ、マネージャー章をそれぞれ着けなければならない。

(5) 監督はベンチでは記録席に最も近いところに位置し、指定されたフリーゾーン内ならば一時的にベンチを離れてコート上の選手に指示を与えてもよい。ただし、サーブ許可の吹笛後は速やかにベンチに着席すること。(ラリー中は座る)

(6) 監督は、タイム・アウトを要求する際、公式ハンドシグナル及び口頭で明確に示すこと。

(7) 試合中のウォーミング・アップはアップ・ゾーンで行い、ボールを使用してはならない。

なお、セット間はフリーゾーンでのボール使用を認めるが、他の試合の進行の妨げにならないよう十分配慮すること。

- (8) 交替競技者はラリー中、ベンチに着席するか、ウォームアップエリアに位置すること。
- (9) 審判に対する質問はゲーム・キャプテンのみに認められる権利である。
- (10) 要求する権利のない者が要求するタイム・アウトや競技者の交代などは拒否される。
なお、プレーに影響を及ぼす、または同一試合中に同一チームの競技者による不当な要求が繰り返される場合は、遅延行為として扱う。
- (11) ユニフォームのショートパンツからはみ出したパワーパンツは禁止する。鉢巻についてもチーム全員が同一のものであれば認めるが、一部がまいていない場合は認めない。
- (12) 各指導者は、選手のけが・事故防止の観点から、ベンチへの荷物の持ち込みを最小限にするよう配慮すること。
- (13) 反スポーツマン的行為や言動に対しては厳正に処理（退場・失格）とする。
- (14) 応援はマナーよく行うようにする。吹笛が聞こえため鳴り物の応援は控える。
- (15) 試合終了時監督は、謝意の気持ちを込めて主審・副審に握手を行う。
- (16) 審判が使うホイッスルは、Aコートで長ベル、Bコートで短ベルとする。
- (17) 初日より審判着を着用すること。
(H27年度よりの新たな取り組みとなるため、チームで審判着を確保すること。)

V. コートのワイピングについて

コート内の選手は小さなタオルを身に着け、コート・ワイピングは選手自身がタオルで行うことを原則とする。タイム・アウト及びセット間はベンチの者がモップを使用して拭いてもよい。それ以外のモップ使用は、審判の指示に従うこと。

VI. その他

- A. 老朽化した体育館を使う場合、フロアのささくれ等注意深く観察し、異常を確認した場合は直ちにコート使用を止め、大会役員に報告すること。
- B. 選手のヘアピンや金属製の髪留めは、ルールブック第2章競技参加者内4.5.1「負傷を引き起こす可能性のあるもの」として取り扱う。そのため、髪は、ヘアバンド等で束ねること。
- C. 審判は以下の用具を準備すること。

審判着（主審・副審／5年生以下のカテゴリーは努力義務）、時計（主審・副審）、ベル（主審・副審／長・短両方）、トス用コイン、筆記用具類（鉛筆、消しゴム、のり）

※2015年の主たる改正は、

- ①アンテナ間のタッチネットは反則。アンテナ外は原則フリー。
- ②副審の追従は原則なし。意図は副審のベンチコントロールに重点が置かれています。
- ③審判上のルールではないがグリーンカードの使用を推奨